

福生三中だより

令和5年10月2日発行 No.7

学校教育目標

- 1 よく聞き、よく見、自分の考えをもつ生徒
- 2 ものごとをやり抜く強い意志をもつ生徒
- 3 責任を果たし、みんなのために働く生徒
- 4 美しいものを求め、豊かな心をもつ生徒

校訓 礼 節



将来のこと、仕事のこと

校長 植村 多岐

10月に入り、朝晩めっきり涼しくなり、これからいよいよ秋本番を迎えます。本校では2年生が9月27日（水）～29日（金）に職場体験を行いました。3日間、学校を離れ職場に飛び込み、社会人として、あるいは職業人としてのあり方を直接学べる絶好の機会となりました。また、1年生は「総合的な学習の時間」に「職業調べ」に取り組み、今はクラス・学年の発表会の真っ最中です。

「職業調べ」といえば、数年前、作家の村上龍さんが書いた「13歳のハローワーク」という本が話題を集めました。この本は514もの職業をやさしく解説してある仕事辞典のようなもので、そこには「大人になると、働いてお金を稼がなくてはならない。どうせ働かなければならないなら、いやな仕事に就くより好きな仕事に就いたほうがよい」という著者の一貫したメッセージが込められています。ですから、この本は、収入の多さや社会的な地位には重きを置かず、あくまで「自分にとって、何が好きか」がものさしとなっていることが特徴であり、興味・関心が高まる視点で仕事を紹介しています。実は1、2年生の教室の後ろの棚にこの本があります。是非、読んでみてください。

私も以前、「自分がお金を払って好きなことをすることが趣味。自分がお金をもらって好きなことをすることがプロ」という言葉を聞いたことがあります。プロのスゴさを分析すると「好きなことだから飽きない。努力を努力と思わないからいくらでも取り組める。ストレスと感ぜないですむからどんどん研究し上達する。」のだと思います。

確かに仕事は、そんなに甘くはない。好きとはいえ、辛く厳しいものです。でも、村上龍さんの「いやな仕事に就くより、少しでも好きな仕事に就いたほうがよい」というメッセージに少なからず共感するところがあります。人生の大半を占める仕事、この境地に達すれば、これからかなり豊かな人生が待っているのではないのでしょうか。

そこで、やがて仕事に就く皆さん、どうでしょう、仕事なんてまだまだ先と言わず、「好き」で人よりまさっているもの、自分が「好き」で、しかも仕事になりそうなことを探しませんか・・・日常の中で、2、3年いや5、6年じっくり時間をかけて・・・

そして、もし「好き」の対象に出会えた時、ただ、見ているだけではダメです。その時点では、まだまだ自分とかけ離れた遠い所にあります。一步でも、二歩でもその対象に近づき、その真実を探り、実現する方法を研究し、実現までのロードマップを自分なりに描いてみることです。この姿勢が将来、プロになる近道ではないのでしょうか。

自分が本当に「好き」なものを見つけてください。

見つかったら、その大切なもののために 努力しなさい。

君たちは、努力したい何か を持っているはずだ。

きっとそれは、君たちの心のこもった 立派な仕事になるでしょう。

監督・脚本 黒澤 明(映画「まあだだよ」より)

一斉下校訓練

8月29日(火)に一斉下校訓練行い、地区班に分かれて一斉下校しました。



不審者対応訓練

9月7日(木)に福生警察署を招き、不審者が学校に侵入したことを想定した訓練を行いました。



修学旅行

9月8日(金)～10(日)の3日間、3年生が京都・奈良方面に出かけました。班行動を中心に、日本の歴史と文化に触れる旅を楽しんできました。



道徳授業地区公開講座

9月16日(土)道徳授業地区公開講座が行われました。意見交換会へは、保護者、CS委員、地域の方々が御参加くださりました。



生徒会役員選挙

9月22日(金)新しい生徒会役員を決めるため、立会演説会と投票を行いました。福生市選挙事務局から本物の投票箱をお借りして体育館で演説を聞いた後、各クラスに戻って投票しました。

